

2014年1月期 (第54期)
第2四半期 (2月～7月) **決算説明会資料**

2013年8月30日
菱洋エレクトロ株式会社

【東証一部 証券コード:8068】

<http://www.ryoyo.co.jp>

設立 : 1961年(昭和36年)2月27日

資本金 : 136億72百万円

代表者 : 代表取締役会長 小川 賢八郎
代表取締役社長 大内 孝好

従業員 : 連結 512名 (13年7月末)
※ グループ総人員 595名

事業内容 : エレクトロニクスを中心とした
“トータルサービス”

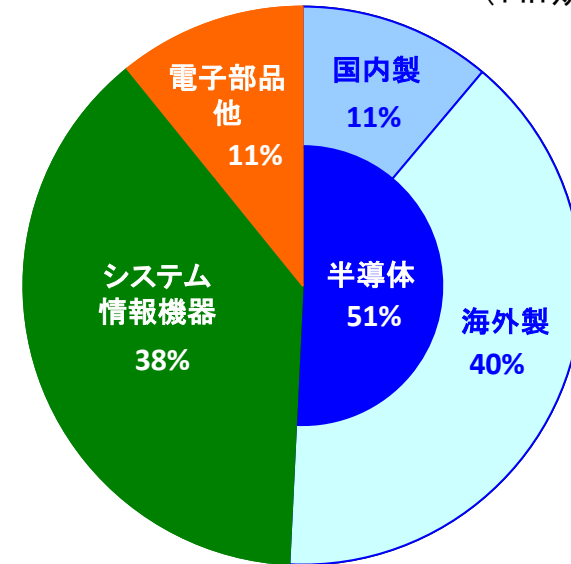
- ◇ 半導体の販売
- ◇ システム情報機器の販売
- ◇ 組込み製品の販売
- ◇ 上記に関わる技術サポート
- ◇ 上記に関わる各種サービス

ISO 9001 / 14001 / 27001 :

国内全拠点(サテライトオフィスを除く)で取得

品目別売上構成

(14.1期/上期)



国内拠点 :

仙台, 郡山, 松本, 高崎(サテライト), 大宮, 八王子, 横浜, 名古屋, 京都, 大阪, 福岡

海外拠点 :

大連, 上海, 深圳, 香港, 台北, バンコク, クアラルンプール, シンガポール, U.S.

国内子会社 :

リョーヨーセミコン, リョーヨーセキュリティサービス

2014年1月期 上期の報告

◆ 国内経済

- ・ 政府の経済政策により輸出・生産動向の持ち直しや為替水準の改善がみられる
 - 世界経済の動向に不透明感は残るものの、国内経済は景気回復へ向けた期待感が高まる

◆ エレクトロニクス業界

- ・ デジタル家電をはじめとする民生機器は需要の低迷および価格下落の影響により、構造的に厳しい状況が続く
- ・ 長らく続いていた生産調整が続いていた産業分野は、ようやく回復の兆しが見え始め、年後半に向けて緩やかに上向く

◆ IT業界

- ・ 企業のITハードウェア投資はインフラ系を中心に堅調
- ・ 「個別・分散投資型」→「集中投資型」の加速により案件の大型化が進む一方で、競争が激化

単位: 億円

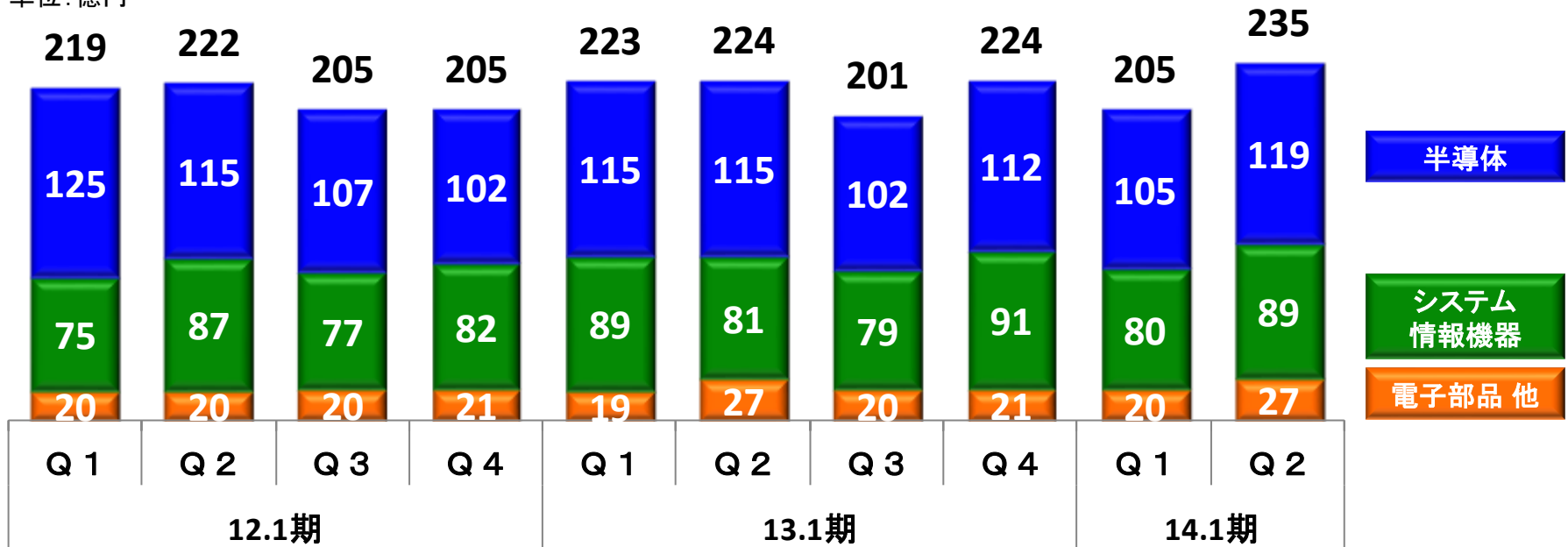
	13.1期 上期	(期初計画)	14.1期 上期	前年同期比	期初計画比	コメント
売上高	447	440	440	▲1.5%	+0.0%	前年を若干下回ったが計画通り着地
売上総利益 (率)	38.1 8.5%	37.5 8.5%	40.2 9.1%	+5.5%	+7.3%	円安進行や売上構成の変化により 金額・率ともに前年・期初計画を上回る
販管費	33.6	33.0	32.2	▲4.0%	▲2.4%	人件費、賃借料などが減少
営業利益 (率)	4.6 1.0%	4.5 1.0%	8.0 1.8%	+74.6%	+78.1%	売上総利益の増加、販管費の削減により 前年・期初計画ともに大きく上回る。
営業外損益	0.3	1.0	1.7	+397.2%	+65.1%	運用収益の増加と為替差損益の改善
経常利益 (率)	4.9 1.1%	5.5 1.3%	9.7 2.2%	+96.4%	+75.7%	
特別損益	0.0	0.0	0.2	—	—	投資有価証券売却益を計上
税引前利益	4.9	5.5	9.8	+99.6%	+78.6%	
法人税等	2.5	2.0	3.3	+30.5%	+65.0%	税負担が軽減
四半期純利益 (率)	2.4 0.5%	3.5 0.8%	6.5 1.5%	+172.7%	+86.4%	
1株当たり利益	9.26円	13.55円	25.26円			

単位: 億円

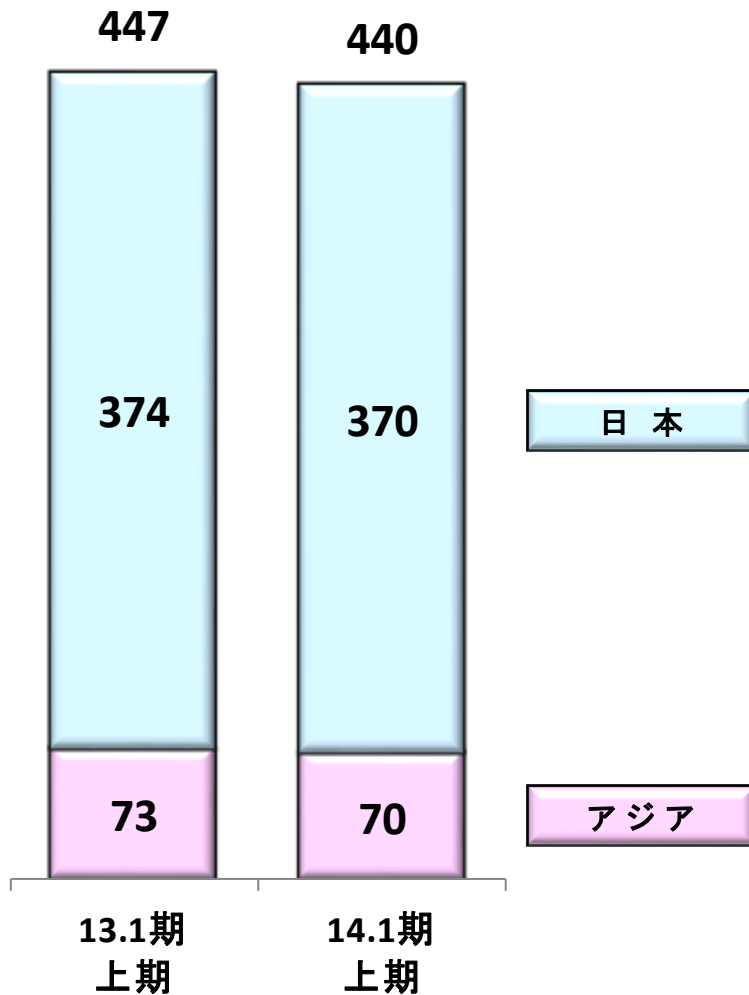
		13.1期 上期	14.1期 上期	前年差	前年比	コメント
総売上高		447	440	▲7	▲1.5%	
半導体		230	223	▲7	▲2.9%	PC周辺機器、通信向けの苦戦が続く
用途別	通信	28	24	▲4	▲15.8%	携帯電話向け高周波製品が減少
	デジタル家電/ その他家電	34	31	▲3	▲7.7%	TVやブルーレイ、ゲーム機向けが低調
	車載	26	32	+5	+20.1%	引き続き堅調持続
	PC/周辺機器	78	65	▲13	▲16.7%	タブレット端末向けスポット案件終息に加え、 ストレージなどの周辺機器向けが減少
	産業/その他	64	72	+8	+12.4%	緩やかながら回復の兆しが見え始める
システム情報機器		171	169	▲1	▲0.9%	春商戦こそ低調も、概ね前年並みの水準を維持
製品別	PC/Server/LAN	68	65	▲3	▲4.7%	企業のIT関連投資は徐々に持ち直すも、 春先の苦戦を補えきれず
	出力機器	31	32	+0	+1.0%	モニターやプリンター製品が堅調
	Software/組込み	71	73	+1	+2.0%	PC向けの苦戦続くソフトウェアは組込み系が増加、 組込み製品はグラフィック系ボードが増加
電子部品 他		46	48	+1	+2.8%	新規案件が寄与し、前年を上回る
仕入先別	国内メーカー	31	34	+3	+9.8%	産業用途向け液晶や光通信向けケーブルが増加
	海外メーカー	16	14	▲2	▲10.8%	前年寄与したスポット案件は終息も、 通信機器向け液晶が増加

- **半導体：**
売上高は前年同期(13.1期Q2)比、前四半期(14.1期Q1)比ともにプラス
- **システム情報機器：**
一部大型案件がQ1からスライドし、Q2は再び90億円前後の水準に回復
- **電子部品 他：**
液晶製品の伸長を中心に、前四半期(14.1期Q1)比で大幅増

単位: 億円



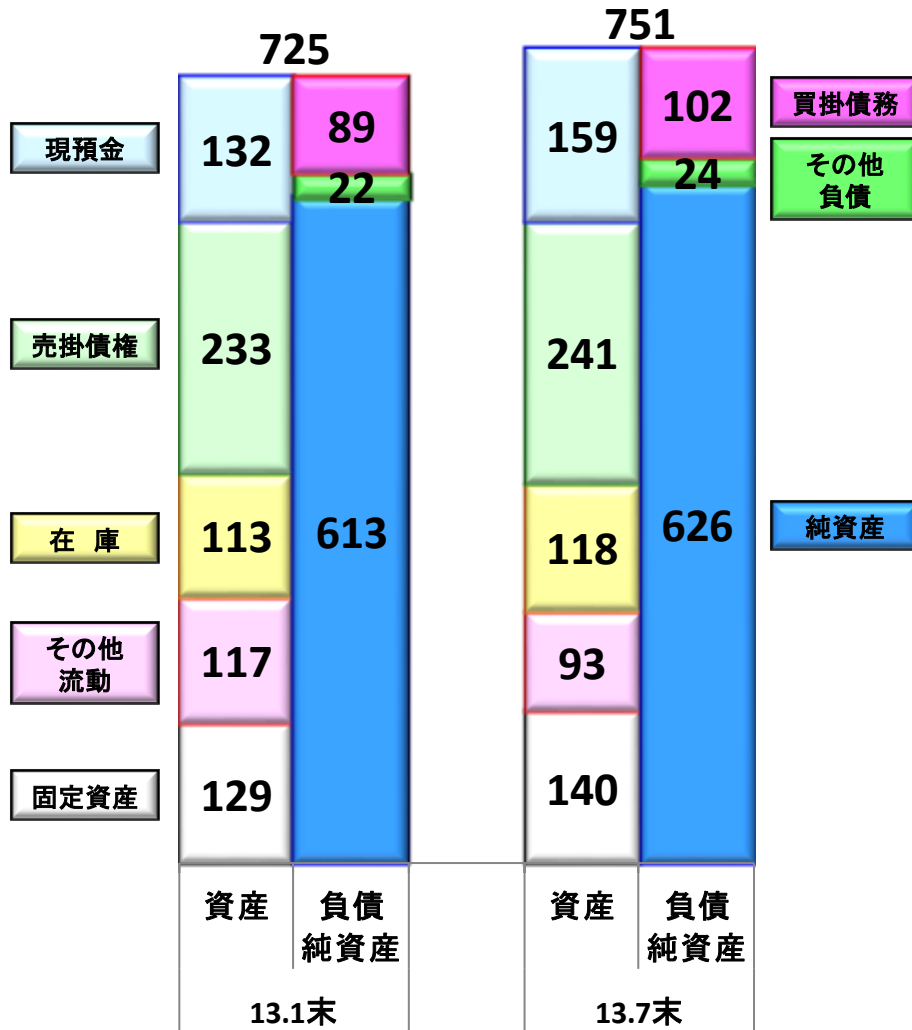
単位: 億円



日本、アジアともに微減収

- 日本 :
PCやPC周辺機器向けの苦戦に加え、春先のIT関連投資の需要一巡も重なり前年実績をわずかに下回る
- アジア (シンガポール, 香港, 上海) :
産業用途向け半導体が増加も、タブレット端末向けスポット案件の終息により減収

単位: 億円



引き続き、強固な財務状況を維持

- 現預金 / その他流動資産 : 運用資産の満期償還が進む
- 売掛債権 / 買掛債務 : 直近の売上水準の上昇に連動して、それぞれ増加
- 固定資産 : 投資有価証券が増加
- 純資産 : 為替換算調整勘定が増加

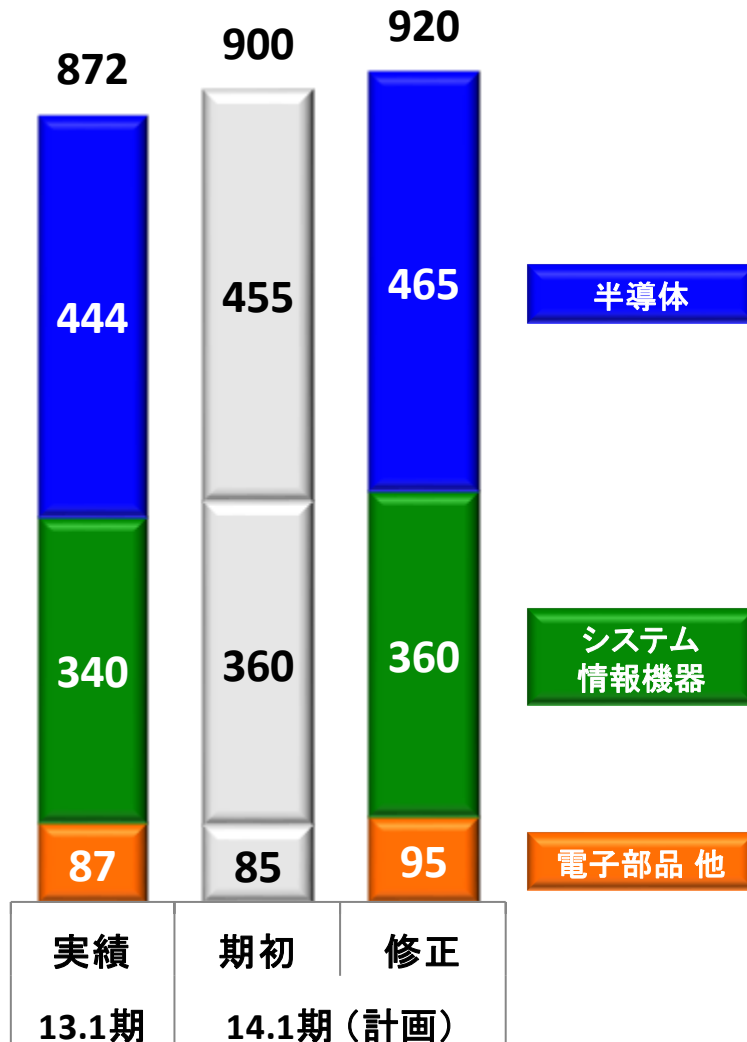
2014年1月期 通期の計画

売上・利益ともに期初計画を上方修正、
営業利益～当期純利益は前年比倍増を目指す

単位：億円

	13.1期 実績	14.1期計画		前年比	期初計画比
		期初	修正(8/26)		
売上高	872	900	920	+5.5%	+2.2%
売上総利益 (率)	73.7 8.5%	77.0 8.6%	82.0 8.9%	+11.2%	+6.5%
販管費	66.5	66.0	66.0	▲0.8%	+0.0%
営業利益 (率)	7.2 0.8%	11.0 1.2%	16.0 1.7%	+121.5%	+45.5%
営業外損益	1.9	2.0	2.5	+33.3%	+25.0%
経常利益 (率)	9.1 1.0%	13.0 1.4%	18.5 2.0%	+103.3%	+42.3%
特別損益	0.0	0.0	0.2	—	—
税引前利益	9.1	13.0	18.7	+105.5%	+43.8%
法人税等	4.9	5.0	7.2	+48.1%	+44.0%
当期純利益 (率)	4.2 0.5%	8.0 0.9%	11.5 1.3%	+171.4%	+43.8%
1株当たり利益	16.41円	30.98円	44.53円		

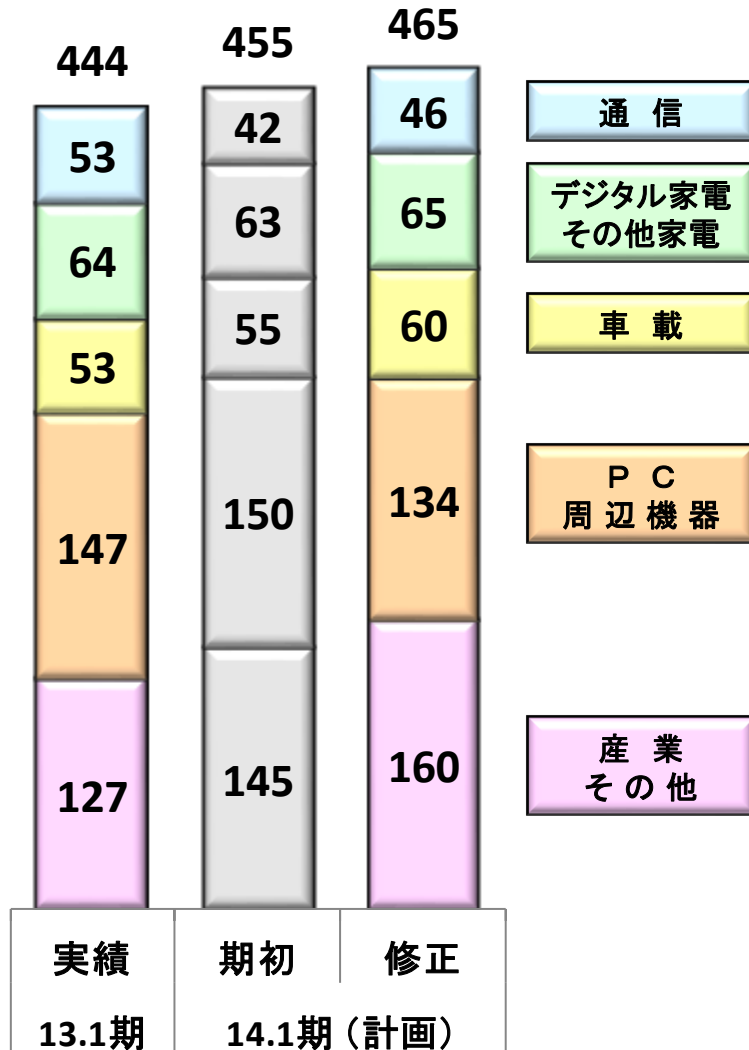
単位: 億円



**半導体、電子部品 他を上方修正、
情報機器は据置き**

- 半導体 :
PC関連の苦戦が想定以上も、
産業向けは年後半に向けて徐々に
上向く
- システム情報機器 :
下期はエンタープライズ向けビジネスの
売上寄与を見込み、期初計画を据置き
- 電子部品 他 :
当初想定を上回った上期の勢いが
下期も継続する見通し

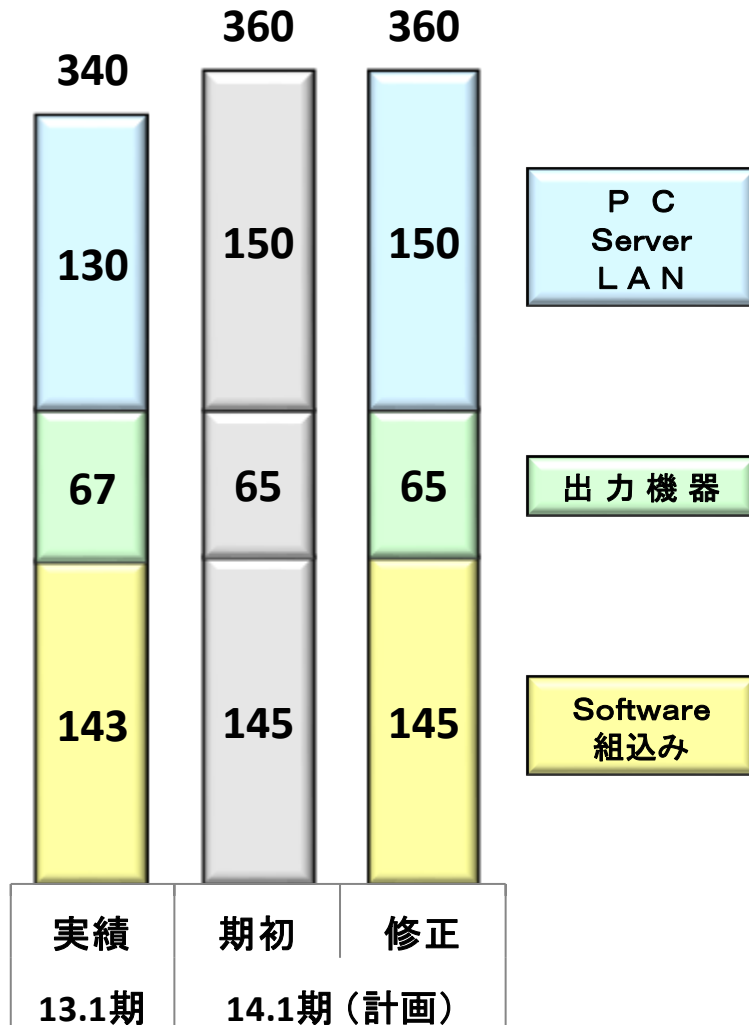
単位: 億円



**産業向けの立ち上がりが早まり、
期初計画比+10億円**

- **車載：**
足元の状況も引き続き堅調であり、
下期も概ね横ばい圏で推移の見通し
- **PC / 周辺機器：**
PC市況は依然として厳しく、
PC周辺機器を含め、期初計画を修正
- **産業 / その他：**
Q2から受注、売上とも回復基調。
下期は新規受注の期待が高まる

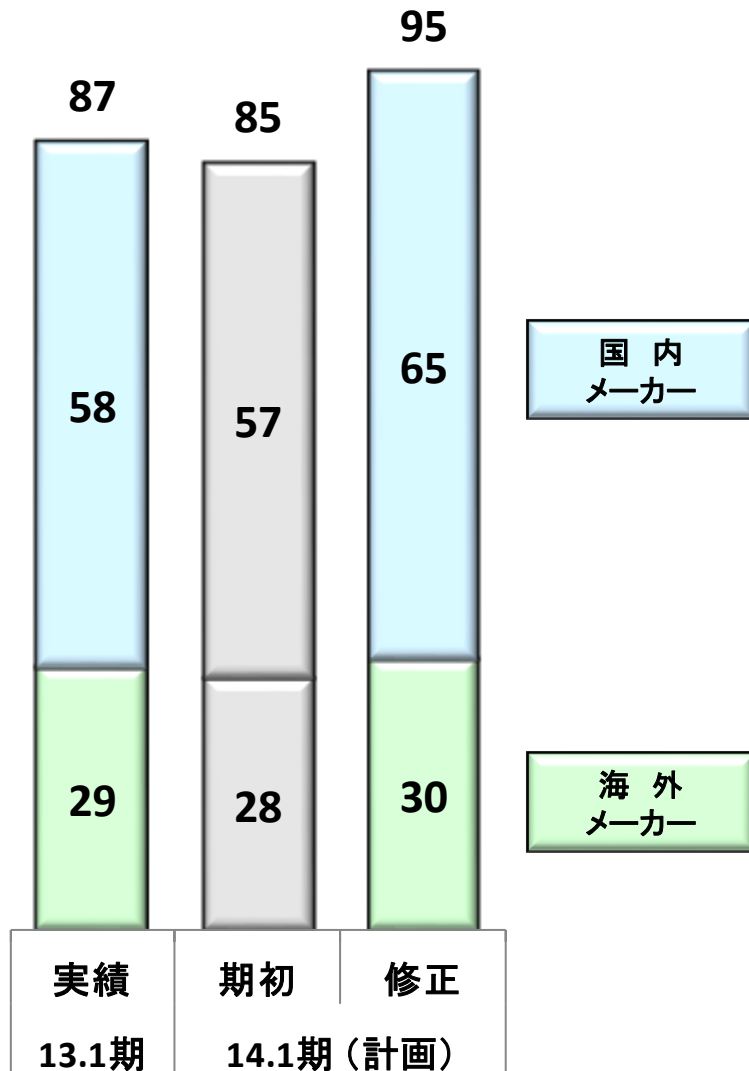
単位: 億円



期初計画を据置き

- PC/Server/LAN :
エンタープライズ向けビジネスは、
下期以降徐々に立ち上がり加速
- Software/組込み :
PC向けソフトウェアはやや軟調も、
組込み系ソフトウェアや
グラフィック系ボードなどの
組込み製品の伸長を見込む

単位: 億円



液晶関連などが想定以上に推移し、
期初計画比+10億円

- ▶ 国内メーカー：
産業用途向け液晶パネルや
密着イメージセンサー等が増勢
- ▶ 海外メーカー：
スポット案件が終息した液晶は
通信機器向けの増加でカバーし、
前年並みの水準を見込む

- 配当方針 : 当社は事業活動から得られた利益の配分を経営における重要事項の一つとして位置づけており、安定した経営基盤の維持ならびに今後の事業拡大に取り組む一方、財政状態や経営環境を勘案しながら株主還元を行っております。

当面の配当につきましては、
現状の水準(一株あたり年30円)を維持することを基本とし、
今後の中期的な利益水準を考慮しながら検討してまいります。

- 配 当 : 14年1月期の配当については、前期同様に年間30円を予定

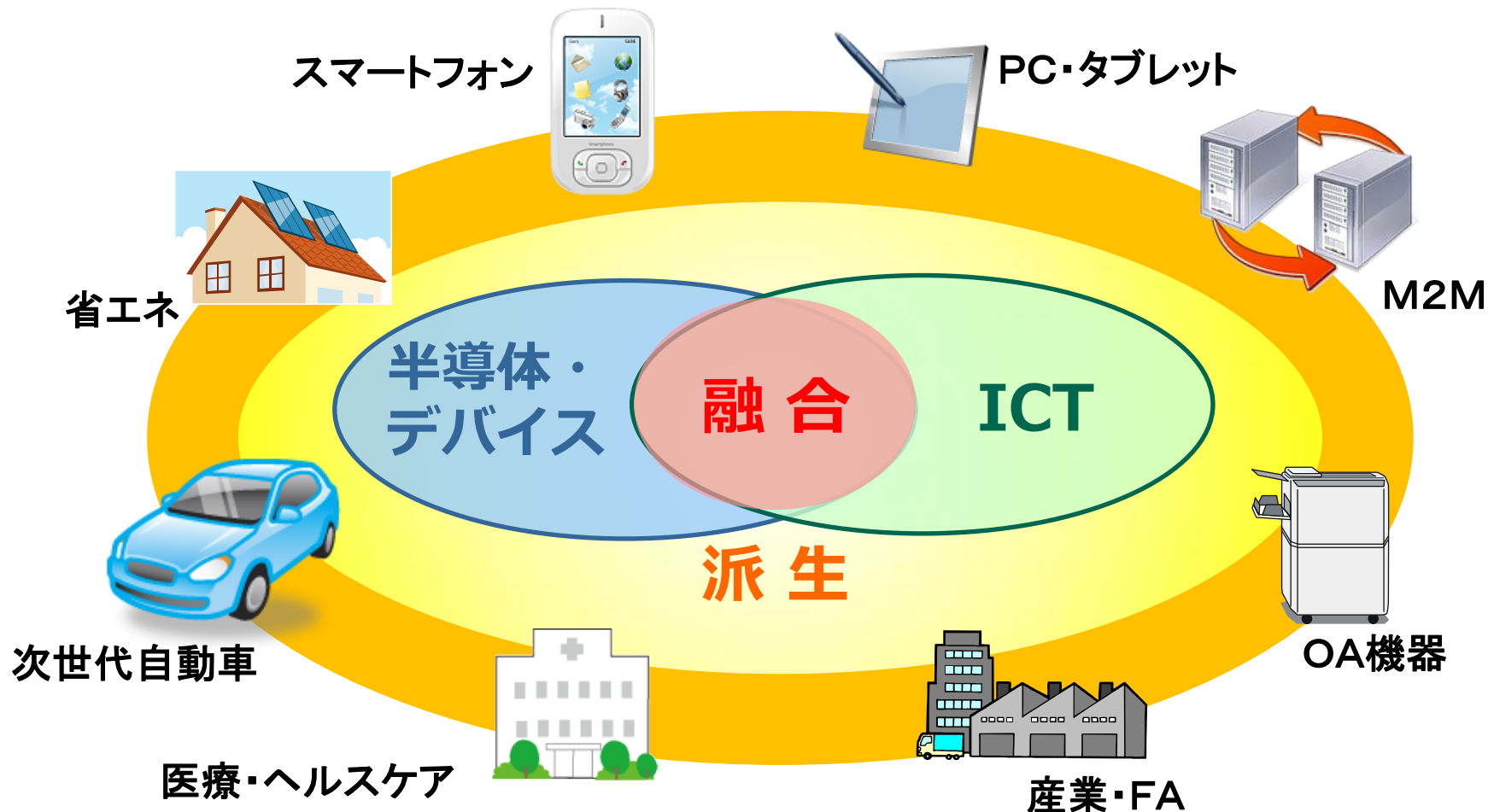
		1株当たり配当金			1株当たり利益	配当性向
		第2四半期末	期 末	年 間		
14.1期	予想		15円	30円	44.53円	67.4%
	実績	15円				
13.1期	実績	15円	15円	30円	16.41円	182.8%

中期的な取り組みについて

～ リョーヨーグループのビジョン ～

“全てがつながるスマート社会”に
感動を与えるソリューションパートナーになる

スマート社会の発展に伴い、半導体や装置、システム、サービスなど様々なビジネスチャンスが広がる



● 全体戦略 ●

1. コア事業の基盤強化と拡大
2. 融合ビジネスへの注力
 - － 新ビジネスの立ち上げ
 - － コア事業への波及
3. 海外ビジネス(自主ビジネス)の拡大
4. 経営・人事・管理体制の刷新
5. M&Aやアライアンスの検討

13.1期実績

売上高 : 872億円
営業利益 : 7億円

14.1期計画

売上高 : 920億円
営業利益 : 16億円

16.1期目標

売上高 : 1,200億円
営業利益 : 40億円

*Change,
Challenge,
Speed*

Topics

Empress社 : 同社の組込みデータベースソフトウェアは北米を中心に、
防衛・軍事・宇宙・航空・電力・医療など幅広い分野で採用され、
日本でも通信・FA・金融などの分野を中心に数多くの採用実績を持つ

● 製品

- － 組込みデータベースソフトウェア

● 特徴

- － スマートフォンやタブレット、組込みデバイスなどとクラウド上のデータベースとの連携・相互接続環境を容易に実現でき、加えて、情報漏洩の恐れが極めて低く、デバイスやネットワークへの負荷が小さい

● ターゲット市場

- － ソフトウェア単体での展開だけでなく、当ソフトウェアを用いたソリューション(P28参照)での展開により“M2M”をキーワードする幅広い用途での採用を目指す

u-blox社：高度に統合化された組み込み型のGNSS(GPS) & ワイヤレス通信のソリューションを提供するグローバル・プロバイダーであり、チップ、モジュール、ソフトウェアソリューションの幅広いポートフォリオを持つ

● 製品

- － GPSチップ、3Gモジュール など

● 特徴

- － 業界トップレベルの感度と性能を有する革新的な機能とパッケージを組み合わせ、顧客のデザインに応える最適な製品、ソフトウェア、ソリューションを提供しており、要求の厳しいとされる自動車用途や産業用途、小型化・高性能・低消費電力が求められるモバイル機器で幅広く採用される

● ターゲット市場

- － スマホやタブレット、車載機器やM2Mなどの幅広い分野に対し、15.1期：5億円の売上を目指す

Silago社：インテル社製品サポートのシリコンタイミングデバイスの開発を手掛ける半導体メーカーとして設立したが、近年では**低価格・超小型ミックスシグナルFPGA製品**の開発にも注力

● 製品

- － 超小型ミックスシグナルFPGA「GreenPAK」

● 特徴

- － 「アナログ回路」と「ディスクリート・デジタル回路」、「受動部品」を1チップに集積したユーザープログラマブルな製品であり、マイコン機能の置き換えやグルーロジックの集積化に貢献

● ターゲット市場

- － 携帯電話やデジタルスチルカメラ、白物家電向けなどを中心に、15.1期：2億円の売上を目指す

7月30日、東京で開催されたNVIDIA社主催イベントである「GTC (GPU Technology Conference) Japan 2013」において、“検査装置でのGPUの活用とFPGAとの比較検討”と題した講演を実施し、GPUとFPGAの比較、FPGAからGPUへ置き換えるメリットなどを紹介しました。

講演には非常に多くの方にご来場いただき、GPUに対する注目度の高さを再認識するとともに、講演後にはすでにいくつかの引き合いも寄せられています。



写真:「Tech-On!」(日経BP社)

① 超小型クライアント “RyPLE(ライプル)”

「小型」・「ハイパフォーマンス」・「低消費電力」というインテル社の次世代フォームファクタ NUCの特徴と、デザイン性、耐久性、拡張性、セキュリティ対策を兼ね備えた超小型クライアント。



など

<主な使用用途>

- ・デジタルサイネージ
- ・受付端末
- ・ベッドサイド端末
- ・物流管理端末
- ・教育端末

② アプライアンスサーバー “M2M Data Connector”

Empress組込みデータベースソフトウェアを搭載し、組込みデバイスと基幹及びクラウド上のデータベースとのデータ連携を可能にする、業界初のM2Mレプリケーション機能を持つアプライアンスサーバー。



など

<主な使用用途>

- ・リモート監視
- ・産業、オフィス機器
- ・POS端末
- ・スマートグリッド
- ・医療、金融端末

当社では、ハードウェア単体としてではなく、
インテリジェントシステム市場に向けたソリューションの
“1パーツ”としてこれらを展開。

CSR活動の一環として、
米・ジョージメイソン大学から19名の企業訪問を受入れ、
日本の文化・企業を知っていただくための交流の場を
もちました。

会社概要や事業内容を紹介するとともに、
本社内を回るオフィスツアーを開催し、
“ビジネスの現場”を見学いただきました。

なかでも当社内に設置されている「ショールーム」では、
当社の展開するソリューションを実際に体験していただき、
非常に興味津々の様子でした。



<2014年1月期 上期の報告>

- 売上高は当初計画通りに着地、
営業利益は売上総利益率の改善、販管費削減により大幅増益

<2014年1月期 通期の計画>

- 売上・利益ともに期初計画を上方修正
- 半導体は上期後半から回復の兆しが見える産業向けに期待。
情報機器はエンタープライズ向けビジネスの本格的立ち上がりを見込む

<中期的な取り組み>

- 「“全てがつながるスマート社会”に感動を与える
ソリューションパートナーになる」
の中期ビジョンの下、コア事業の拡大と総合力を結集した
ビジネス展開により、持続的成長を実現する。
- 2016年1月期の目標
売上高：1,200億円 営業利益：40億円

● 注意事項

本資料内の業績および将来に対する見通しは、当社が発表時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の結果は経済環境やその他様々な要因より、当初の見通しとは異なる可能性がありますことを予めご承知おきください。

● 本資料に関するお問い合わせ先

菱洋エレクトロ株式会社 経営戦略室 経営企画部 五月女、宇野
TEL 03(3546)5088
E-mail irmanager@ryoyo.co.jp